

記 録

国際ロータリー 第2640地区

INTERCITY MEETING

第 4 組



2009-2010

ロータリーの未来は あなたの手に

日 時	:	2009年11月21日(土)	12:30	～	17:00
			部門別会議	12:30	～ 13:20
			全体会議	13:30	～ 17:00

会 場 : 粉河ふるさとセンター

ホスト : 粉河ロータリークラブ

「縁づくり」

村上ガバナーのIMの方針である「縁づくり」をどう現場で進めるかと模索してまいりました。今ロータリアンであるという縁でご多忙の中ここにお集り頂きました。これも縁であります。

そこで2部に分け、この「縁づくり」について考えてみたいと思います。

まず各クラブに、どんな奉仕活動をしているかを発表して頂きます。当たり前のことは、一度当たり前になってしまうとだれも意識しなくなると言われております。どんな縁で、どんな苦勞で、この奉仕活動が出来てきたかを振り返り、再認識をすることで今後の課題が見えてきます。また他のクラブの活動の一助となると思います。

第2部では皆さんよくご存じの、あのまいど1号を打ち上げた、東大阪の中小企業が集まってできた人工衛星プロジェクトの苦勞話や、「本命ミッションは人づくり」と言われるように、人との縁についてご講演頂きたく思います。

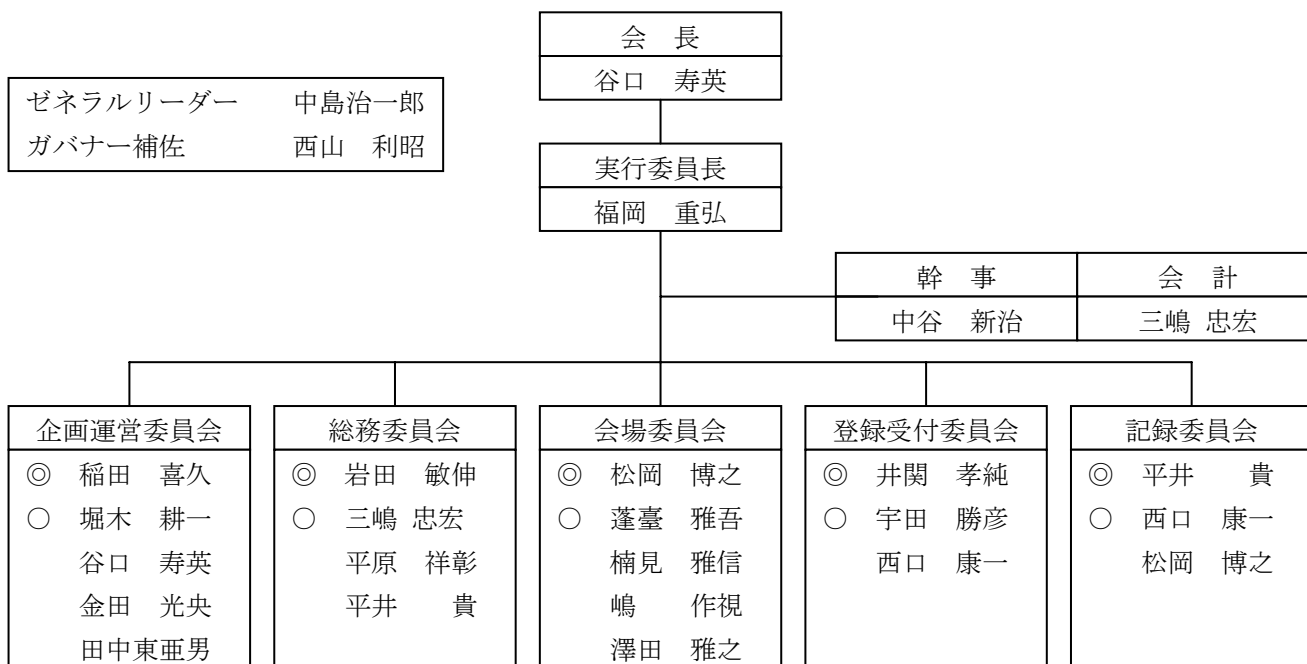
“円(まる)”には直径や直線も無数に引けます。また手に手つないで大きなまるを作り、その手が直接握れない向こうの手とつながり、見えない線を見える線に縁を作って頂きたく、これら2つを結びつけて、この機会をおおいに利用してください。

★ 参加クラブ

高野山ロータリークラブ
 岩出ロータリークラブ
 橋本紀ノ川ロータリークラブ
 橋本ロータリークラブ
 粉河ロータリークラブ

以上5クラブ

★ ホスト 粉河ロータリークラブ



ゼネラルリーダー	中島治一郎
ガバナー補佐	西山 利昭

プ ロ グ ラ ム

平成21年11月21日（土）

時 間	所用時間	事 項	場 所	担当者 その他
11:00～ 13:30		【登録受付】	小ホール前	登録委員会
12:30～ 13:20	50分	【部門別会議】 情報規定委員長会議 米山記念奨学委員長会議 ローリー-財団委員長会議 ガバナーとの交歓会	会議室 視聴覚室 和室 応接室	情報規定委員長 西尾 幸祐 米山記念奨学委員長 浦口 英尚 ローリー-財団委員長 岩本 行弘 ガバナー 村上 有司
13:30～ 14:00	30分	【開会式】 開会点鐘 君が代・奉仕の理想 開会・歓迎の言葉 ガバナー挨拶 来賓・地区役員紹介 参加クラブ出席報告	小ホール	S A A 中谷 新治 ホストクラブ会長 谷口 寿英 ソングリーダー 松岡 博之 ホストクラブ会長 谷口 寿英 ガバナー 村上 有司 ホストクラブ会長 谷口 寿英 登録受付委員長 井関 孝純
14:10～ 15:20	70分	【フォーラム】 ①高野山ローリー-クラブ ②岩出ローリー-クラブ ③橋本紀ノ川ローリー-クラブ ④橋本ローリー-クラブ ⑤粉河ローリー-クラブ	小ホール	進行 実行委員長 福岡 重弘 講評 ゼネラルリーダー 中島 治一郎 ガバナー 村上 有司 ガバナー補佐 西山 利昭
15:30～ 16:30	60分	【基調講演】 演題 「人づくりは、モノづくり」	小ホール	東大阪宇宙開発協同組合 副理事長 吉田 則之様
16:40～ 17:00	20分	【閉会式】 講評 次期ホストクラブ発表 次期ホストクラブ会長挨拶 閉会の挨拶 手に手つないで 閉会点鐘	小ホール	S A A 中谷 新治 ゼネラルリーダー 中島 治一郎 ホストクラブ会長 谷口 寿英 高野山ローリー-クラブ 会長 近藤 本淳 ホストクラブ副会長 堀木 耕一 ソングリーダー 松岡 博之 ホストクラブ会長 谷口 寿英

部 門 別 会 議

情報規定委員長会議

【出席者】

地区より

高野山ロータリークラブ

橋本ロータリークラブ

橋本紀ノ川ロータリークラブ

岩出ロータリークラブ

粉河ロータリークラブ

上野山英樹（アドバイザー）

豊田 泰史（地区情報規定委員）

西山 利昭（ガバナー補佐）

酒向 征時（情報規定委員長）

豊澤 浩（人間尊重・地域発展・環境保全委員長）

谷川 芳昭（R情報・選考・職業分類部門リーダー）

金田 光央（クラブ奉仕部門委員）

三嶋 忠宏（プログラム委員長）

【司会・説明】上野山英樹（アドバイザー）

1. 地区委員会の動向について

（1）制定案と決議案について

（2）RI 理事会提出案件と日本（地区またはクラブ）提出案件について

2. 質疑応答・意見交換

- ・ クラブ情報規定委員会の具体的な活動内容
- ・ アンケートについては、クラブ会員の意見が十分反映されるように工夫してほしい。



米山記念奨学委員長会議

【出席者】

地区より	松下 光春 (カウンセラー補佐)
	浦口 英尚 (地区米山記念奨学委員長)
高野山ロータリークラブ	近藤 本淳 (クラブ会長)
橋本ロータリークラブ	田中 崇喜 (米山記念奨学委員長)
橋本紀ノ川ロータリークラブ	佐藤 正 (世界社会奉仕委員長)
岩出ロータリークラブ	和田 脩 (米山奨学部門リーダー)
粉河ロータリークラブ	稲田 喜久 (米山記念奨学委員長)
	澤田 雅之 (クラブ奉仕部門委員)

【司会・説明】浦口英尚 (地区米山記念奨学委員長)

1. 米山記念奨学生社会貢献活動の実施状況

国際理解の為のワークショップを大阪府岬高校で、又有田市4中学校でワークショップの実施

2. 米山奨学生の受け入れ状況について

本年度 28 名、来年度 24 名で減少傾向に有る。奨学生の選考について東京での審査が終わった各人に電話をし、将来の展望・日本語能力・日本語筆記試験と面接など時間と手間をかけている。

3. 問題点として、

- ・ 近年、受け入れ国が偏っているのでは？
- ・ もっと貧しい国、学生がいるのでは？
- ・ 平等にできないのか？
- ・ 米山の見直しを・・・
- ・ その他



以上の意見を考慮し、今後の選考に配慮願いたいと思います。

4. その他米山寄付金等地区よりの協力要請。

5. 続いて各クラブより質疑応答で予定時間終了。



ロータリー財団委員長会議

【出席者】

地区より	岩本 行弘 (地区ロータリー財団委員長)
	初田 隆生 (地区財団奨学金委員長)
	高寺 壽 (地区財団学友委員長)
	花田 宗弘 (地区財団研究グループ交換委員)
高野山ロータリークラブ	宮田 篤代 (ロータリー財団委員長)
橋本ロータリークラブ	奥田 義之 (ロータリー財団委員長)
橋本紀ノ川ロータリークラブ	福井 康雄 (クラブ会長)
岩出ロータリークラブ	西平 邦彦 (ロータリー財団委員長)
粉河ロータリークラブ	岩田 敏伸 (ロータリー財団委員長)

【司会・説明】 岩本行弘 (地区ロータリー財団委員長)

地区各担当委員長の報告と今後の事業計画等資料によって説明・発表。今後各クラブにおいても意識を高め、ロータリー財団に対する努力と協力が必要となります。

主な事業内容について

- ロータリー財団国際親善奨学金について
 - ・ 海外派遣親善奨学生について
 - ・ 海外からの受け入れ国際親善奨学生について
 - 2011 - 12 年度ロータリー財団国際親善奨学生募集要項
 - ・ 応募資格等について
 - ・ 留学までの流れ等について
 - 財団学友小委員会からのお願い
 - ・ 学友の追跡調査の協力依頼
 - G S E受け入れについて
 - ・ 4組は次年度が担当となります。
- 但し、高野山ロータリークラブには、世界遺産の関係でご苦勞かけるかとも思います。
- 2008 - 09 年度 地区別寄付額について



ガバナーとの交歓会

【出席者】

地区より	村上 有司 (ガバナー)
	津村 寛司 (地区副代表幹事)
高野山ロータリークラブ	平野 一夫 , 前 清
橋本ロータリークラブ	喜多 啓允 , 吉田 裕 , 萱野 忠重
橋本紀ノ川ロータリークラブ	大沼 郁夫 , 山崎 隆充 , 田中 和男
岩出ロータリークラブ	芝田 豊和 , 明渡 眞幸 , 溝川 保博 , 柳川 豊和
粉河ロータリークラブ	宇田 勝彦 , 楠見 雅信

【会議要旨】

村上ガバナーより、東京で開催された全国ガバナー会・R財団セミナーへの参加報告。

● R 財団に対する会員からの年次寄付積立金に生じている運用赤字について

年次寄付積立金は、R 財団において 3 ヶ年間運用され、その後地区へ 50%・R 財団 50%の割で配分され、財団活動資金に充てられますが、今回の運用赤字は、昨今の株価の低迷によるもので、帳簿上の赤字であり、株価が上昇すれば解消されるものであります。



● R 財団の新しい補助金制度について

R 財団は 2008 年に従来からの補助金制度を改め、新しい補助金制度を策定し、2010 年から 3 ヶ年間の新しい補助金制度で試験的プログラムに参加する 100 地区を選び(日本では 34 地区中 6 地区が該当)パイロット地区として新しい制度で運営することと致しました。また、パイロット地区以外の全ての地区も 2013-14 年からは、この新しい補助金制度へ移行しなければならなくなりました。

・新地区補助金制度…新地区補助金とグローバル補助金の 2 種の補助金になります。

新地区補助金制度は、クラブと地区が海外の緊急なニーズに取り組めるようにするもので、DDF の 50% まで利用できる。

グローバル補助金は、クラブ・地区計画補助金と、パッケージ補助金の 2 つがあり、いずれも DDF と WF 及び現金の組合せで、DDF の 50%以上を利用できる。

●恒久基金寄付について

- ・ R 財団に対する寄付金で、年次寄付と並んで大事な寄付金です。
- ・ 1 人が 1000 ドル寄付すればベネファクターとして登録される。
- ・ R 財団は、恒久基金寄付の積立を、2025 年までに 10 億ドルが目標。
- ・ 2009 年 5 月現在 5 億 6 千ドルです。恒久基金への寄付もお願いしたい。

【質疑・応答】

橋本 RC : R 財団の国際親善奨学生制度は、新しい補助金制度になる 3 年後には消滅するのか？

ガバナー : マルチ・イヤーは無くなるが、1 ヶ年のものは残る。また、6 つの目的に合ったものはパッケージ補助金を利用すれば 3 年～ 5 年利用できる。

橋本 RC : 国内の高校生が、国内の大学へ進学する場合も R 財団奨学生として利用できるのか？

ガバナー : 利用できる。

橋本紀ノ川RC：ライラ・キーマン会議はどうなっているのか？

ガバナー：御坊RCの担当者からクラブへ連絡が届くと思う。

高野山RC：ポリオの寄付を出す時、寄付先はどうなるのか？ 寄付目的を指定しているのか？

ガバナー：寄付目的を指定しなければ年次寄付の扱いとなる。

年次寄付の個人の累計額が1000ドルになればポール・ハリス・フェロー。2000ドルになればマルチプル・ポール・ハリス・フェローとなる。この他、恒久基金に1000ドル寄付すればベネファクターとなる。

橋本RC：R財団のポリオ撲滅は99%達成したと聞くが、残り1%の為に500億ドルが必要と言われている。運動価値があるのか？

ガバナー：アフガニスタン、ナイジェリア等の紛争地域が残っているので思うように進まないのではないかと？RIも急ぐ方策を考えるべきだ。

○ガバナーより

- ・ 来年4月17～18日の両日にわたって地区大会を開催するので、多数参加して下さい。
- ・ 今後、ポリオにしても、水問題にしても、是非現地へ行って見て頂きたい。わが身をもって自覚するとともに、クラブ広報を強化し、社会の人々に認めて頂くことが大切だと考える。



登録・受付風景



開 会 式

◎司 会 S. A. A 中谷 新治

一生懸命務めさせていただきますので、皆さまのご協力よろしくお願
い致します。



◎開会点鐘 ホストクラブ会長 谷口 寿英

◎君が代、奉仕の理想 ソングリーダー 松岡 博之



◎開会・歓迎の言葉 ホストクラブ会長 谷口 寿英



改めまして、皆さん今日は。国際ロータリー第2640地区 インター
シティ ミーティング4組を開催いたします。

今日、縁あってこの会場にお越し頂きましたロータリアンの皆様。ご
出席いただきありがとうございます。厚く感謝申し上げます。昨年の中頃、すばらしいIMをされた橋本RCさんから今年度の開催を引き受け、福岡実行委員長を中心に内容あるIMにどうしようか、村上ガバナー様の方針をどう結びつけていくかなど、中島ゼネラルリーダー様にわざわざ粉河までお越し頂き検討を重ねてまいりました。

第1部では、各RC様に奉仕の実例をご報告いただきます。3名の方にご指導を戴き、今後の活動の縁づくりに活用して頂きたく存じます。発表者の皆さんご苦労さまです。よろしくお願いいたします。

第2部では、あの“まいど1号”を打ち上げられました「東大阪宇宙開発協同組合 吉田則之様」を講師としてお招きさせていただきました。打ち上げまでの苦労話を聞いて頂き、人と企業の縁について何か示唆を得て頂きたくお願いいたします。

何かと不行き届きの点多々あると存じますが、ロータリーの友情にてお許しください。5時までの長時間ですが、最後までよろしくお願申しあげ主管の会長の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

◎ガバナー挨拶 ガバナー 村上 有司



第4組のIMが、粉河ロータリークラブのホストで開催されます。粉河ロータリークラブは、創立43年を迎える伝統クラブですが、会員減少に苦しみ、今19人でクラブ運営をしています。そんな中ですが、中島ゼネラルリーダーの御指導の下、谷口会長・福岡実行委員長ら会員が一体となって、今日の会議を準備してくれました。ガバナーとして、その御苦労に深くお礼を申し上げます。

ロータリークラブは、ポール・ハリスらによって1905年創立されました。それから104年の歴史を経て、「200を超える国又は地域に、32,000を超えるクラブ、123万余人の会員を数える」民間最大の奉仕団体に成長しましたが、会員減少や指導理念などをめぐって曲り角に立っています。それでも、ロータリーは、“世

界平和と人類の幸せ”のため発展を続けなければなりません。ロータリー自身、時代に合わせ“変革と進歩を”遂げる必要があります。それに加え、次の世代を任せる後継育成にも心をいたさなければなりません。人材は一朝一夕に育てることが出来ません。ロータリーを不滅のものにするためには、着実に人づくりに励まなければなりません。

ロータリアンは、職業奉仕の御旗の下、職業人として、又人間として倫理観の醸成に努めることが必要ですが、その延長線上で慈愛の心で奉仕活動の努力をしなければなりません。

今日の基調講演は、吉田則之先生の「人づくりはモノづくり」ですが、時宜にかなったものです。これからのロータリーの参考となることと思います。



◎来賓・地区役員紹介 ホストクラブ会長 谷口 寿英

◎参加クラブ出席報告 登録受付委員長 井関 孝純

各クラブ出席状況

クラブ名	会員数	免除会員	本日の出席者数
高野山RC	17名	0名	13名
岩出RC	24名	5名	18名
橋本紀ノ川RC	28名	0名	24名
橋本RC	51名	5名	30名
粉河RC	19名	2名	17名





フォーラム「奉仕活動の発表」

◎司会進行 福岡 重弘 IM実行委員長

◎高野山ロータリークラブ 高梨晃瑞

高野山クラブの昨年度と、一昨年度の社会奉仕事業から2点ご紹介させていただきます。

まずはじめに、国際ロータリー100周年を記念しての社会奉仕プロジェクトとして2003-2004年度前窪ガバナ一年度に「ロータリー100年の森林」として「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産登録推進に合わせ、このバッファゾーンに世界遺産を支える豊かな森林資源を育成する事業として地区から提唱されたのです。また、豊かな森を未来への遺産として残すものです。



2640地区が和歌山県緑化推進会和協働で2004~2006年まで3年間にわたり8種類の落葉紅葉樹木、山桜、檜、伊呂波楓、コナラ、栗、トチノキ、ヤマボウシ、エドヒガシなど2,424本植樹しました。目的は、この森林づくりを通して、地区内のロータリー会員相互の交流と親睦の場、人と他の生物の共生できるモデルとなる森林造り、保水力の高い森林造りによる環境保全をめざしています。この事業には地区内76クラブ台湾の姉妹クラブ合わせて77クラブから、会員が苗木代1万円を拠出していただきました。現在、森林の管理は和歌山県緑化推進会が請け負い、高野町森林組合が毎年下刈りをして維持管理しています。

しかしながら、植林から6年が経過してそろそろ会員の皆様の記憶も薄れてきましたので、地元高野山クラブとして、一昨年度から高野山高校インターアクトクラブと共に、平成20年6月に100年の森林周辺の草刈りを始めました。一昨年は高野山クラブから地区環境保全委員長に亀岡会員が出向していましたので、委員長の希望で、草刈りが行われました。

昨年度は平成21年6月に移動例会として、角濱正和会長のもと、100年の森林横にテントを張って、お弁当をいただきながら、例会と草刈り奉仕を致しました、移動例会としたのでインターアクト4人を含め20名近い会員が草刈り器を数台駆使して広範囲に整備することが出来ました。クラブ内の意気も大いに上がって、今後とも毎年継続しそうな勢いです。「100年の森林」は高野山大門から山内に入らず南に約2.3kmほど行った左手です、大きな看板がありますのですぐわかると存じます、高野山にお越しの節には森にも足をお運び頂ければ幸いです。

次に一昨年平成20年5月に実行した、高野町内すべての家庭に火災報知器を無償で設置した事業の報告です。

高野町は年々高齢化が進み、独居高齢者老人が643名にのぼる報告がありました、最近建築基準法で個人住宅にも火災報知器の設置が義務付けられる報道もあり、高野山ロータリーの社会奉仕事業として、独居老人宅に無償で火災報知器を提供することが提案されました。その提案を受け、近藤大玄会長並びに理事会は約250万円の設置費用の拠出を決め、高野町に目的寄付を致しました。それに合わせて総本山金剛峯寺も文化財保護の目的もかねてロータリーと同額程度、高野町の「安心・安全な町造り」に寄付することが決まりました。おかげで、高野町全戸に火災報知器が設置できることになり、高野町消防団が全面協力して、各戸に火災報知を団員が回って実際に取り付け工事をして頂きました。

当クラブの、中本芳也会員が消防団副団長、西本憲茂社会奉仕委員長が分団長と言うこともあり、この事業は一気呵成に進み、高野町、金剛峯寺、消防団、ロータリークラブの共同事業として、実効性のある意義ある社会奉仕事業になったのではないかと考えています。

◎岩出口ロータリークラブ

内山 昭

2009～2010 年度岩出 RC の方針は、悔いのない奉仕活動を・・・としました。その方針に基づき、CLP 導入 2 年目の今年、前年度の組織を若干改革し、個々の委員会が活動しやすい方向へと考えました。

今年度における、岩出 RC の活動についてご紹介いたします。ご紹介するのは、奉仕活動に限らせていただきましたので、ご了承ください。

- 1) 7 月 12 日(日)例年行われている、岩出市主催の「クリーン 缶 トリー運動 in 岩出」に参加、大宮緑地公園はじめ、紀の川河川敷、根来地区、船戸地区にわたって清掃、リサイクルを考えて分別収集をしました。
- 2) 岩出 RC が継続して実施している、国際青少年交換長期派遣留学生を本年はドイツへ送り出しました。7 月 31 日(金) 関西空港で見送りました。ドイツへ留学生を見送ってから約 20 日後の 8 月 20 日(木)、ドイツからの留学生を出迎えました。日本語が上手に話せる留学生でした。この長期交換留学生派遣事業は、1990 年以来岩出 RC の継続事業として、位置づけられた奉仕活動と言えます。



これに関連するのですが、昨年度、今までに交換した留学生に対し、アンケートを実施して、留学に対する思いや近況報告をしていただきました。夫々が人生の一コマの中で、意義深い体験と自分を磨くことが出来たとの回答を得て、留学生の派遣及び受け入れを実施して、良かったと思いますが、その裏側には、ホストの家族皆様の大変なご苦勞があったからだと思ひますし、感謝を忘れてはいけないと思ひます。

- 3) 紀の川市内の児童養護施設「丹生学園」の子ども(4年生以上)を対象に、第2・第4木曜日に英語教室を開催しています。現在7名の生徒が、夜7時から約2時間、クラブ事務局で励んでいます。この事業を始めて5年になります。最初に教室に通っていた生徒たちは、もう中学生になっていると思ひます。英語の授業は楽しいと、頑張ってくれているでしょう。堅苦しい学習だけではなく、時にはXマス会を開催し、英語の歌やスピーチを披露してくれています。
- 4) 毎年根来寺の境内で、かくばん祭りにおいて、献血運動を展開しています。本年は来週の土曜日に実施を予定しています。例年60～70名の献血者がおられます。
- 5) 継続事業として6年目を迎えて実施していますが、那賀高等学校の吹奏楽部による、「きさらぎコンサート」を開催しています。2月に開催するのですが、旧那賀郡内の、障害者施設の子どもたちを招待し、また広く一般の方々にも聴いていただいております。演奏する曲目も広範囲にわたり、クラシック、ポップス、アニメソング、歌謡曲等レパートリーが広がっています。生徒が紹介する楽器紹介も、ユーモアに富んだ紹介をしてくれて、聴衆者を楽しませてくれます。
- 6) お花見のシーズンが終わった頃、根来寺境内の早朝清掃奉仕活動が行われます。早朝の根来寺境内は、空気が張り詰めて、清々しい気分になります。午前7時頃から、ゴミ等が見当たらなくなるまで約1時間、分別しながら清掃します。その後で朝食をいただきますが、大変おいしく頂けます。
- 7) 青少年健全育成を考え、智辯高等学校野球部高嶋 仁監督を講師に迎えて、公開講演会を開催する予定です。演題は「育てつつ 育てられ」となっております。期日は12月12日(土)午後2時から、会場は貴志川町の生涯学習センター「かがやきホール」です。本日参会の皆様方もぜひご参加いただければ幸いです。

①市立体育館、運動公園の植樹と維持管理

これにつきましては、当クラブ創立10周年記念植樹として7種類ほどの樹木を運動公園内約200平方メートルに植樹をしたものであります。植樹の中には、成育の悪いものもあり、又気候上雨不足などがある為、「水やり」「雑草の刈り取り」「肥料の添付」など必要に応じて皆が集まり、活動を続けております。少しでも皆さんに好感を持って頂けるよう頑張っていきたいと思っております。来年3月頃にも1部植え替えを予定しており、その為の予算も計上しています。



特に今年の夏は大変でした。異常気象といわれた今年は、6月頃から早くも現れ、集中豪雨と日照りの繰り返しで樹木の維持管理も並大抵ではありません。外国では散水を1日タイマーセットでしている所を見かけましたが、もう少し予算があればと思っています。

②青少年育成活動

主に学童スポーツ活動を支援しており、市内17チームの学童野球大会のスポンサーとなっています。毎年4月頃開催され、3週にまたがるトーナメント試合を行い、優勝チームには優勝旗、カップが授与され、学童、父母共に非常に人気を集めています。余談になりますが、10月には地元出身の筒香選手が横浜ベイスターズに入団しました。このニュースは市内でも大変な反響を呼んでおります。青少年は筒香選手に続く未来のスターを目指してがんばってくれる事と思います。

又、当クラブでは学童野球以外のスポーツでも育成活動を行っていききたいと思っております。

③薬物乱用防止キャンペーン

今年はすでに1回目として歩行者天国でキャンペーンを行いました。2回目として、明日22日は市で企画する「まなびの日」というイベントが運動公園メインアリーナで行われますので再度キャンペーンを行います。麻薬といわれる薬物の種類、その症状、身体における影響など、これらに関するパネルを展示し、入場者にDVDによる画面放映などで認識を持ってもらいたいと思っております。

又今年は、芸能界で麻薬事件が大きく取り上げられました。事件として全国ネットで放映された為、全国の青少年がどういう影響を受けたか非常に心配するところでもあります。被告人は、「一時的に疲れをとるため」とか「気分がすっきりする」とか言ってましたが、この言動がかえって好奇心を増長しかねない結果になるかもしれません。

又、社会環境も大きな原因の一つと考えられます。就職難の現在、ふとした誘惑にかられ事件を起こしたケースが報道されております。又最近では教師が麻薬を所持していたとのニュースが流れました。ここまできたのかという感じであります。教師のモラルを問いかねない現実に定期的なドーピング検査も必要になるかもしれません。

このキャンペーンにつきまして、当クラブ以外でも実施されているクラブがあろうかと思いますが、2640地区として重点活動に取り入れて頂くことを提案します。

④DVDの貸し出し

今年度の橋本RCの喜多会長は、初例会の挨拶の中で本年度の重点目標としてクラブ内に於いては会員の増強、外に向かつてはネパールに学校の校舎建設と云う活動目標を掲げました。

増強に於いては、委員長の溝端会員を中心に何度か会合を持ち、今日現在純増2名。そして来月始めに入会1名と3名の純増が確定しております。今後もより一層会員一同努力して、増強出来る様がんばりたいと想っています。

そしてもう一つの重点目標で国際奉仕委員会の担当であるネパールに学校校舎建設の事です。

何故ネパールに校舎建設と云う思いに至ったかと申しますと、何年前かに私達IM4組が所属する国際ロータリー2640地区が建設した岩村記念病院がネパールにあります。私達橋本RCは、過去3度岩村記念病院に支援金を寄贈してきました。

喜多会長は山登りが大好きで、8年前のヒマラヤ登山の折に病院を訪問して支援金を届けた事がありました。その時にネパール国内の学校校舎の粗末な状況を目の当たりにし、いつか何らかの形で支援をしたいと云う想いを常に抱いていたそうです。そして今年の5月に下調べの為一人でネパールを訪問して来ました。私も当然国際奉仕委員長として同行する予定でしたが、私が日程調整出来ず残念ながら同行できる事ができませんでした。

喜多会長は兼ねてからネパール国軍の陸軍大佐と親交があり、その大佐を介して色々調べた結果1・2件候補に挙がる学校があったのですが、それはカトマンズ周辺の学校である為、土地代・建設費用共に我々の思っていた以上の金額で予定の資金ではとても足りないのが分り、別の手段でできないものか色々調べている内に、さいたまのNPO法人で主にネパールの僻地で学校建設を専門的にやっている団体があると云うのがわかりました。それは、さいたまユネスコ協会と言ひ、その団体の方と度々連絡を取り合ったり、調べた結果、非常に信頼性と実績があるNPO法人であるのが分り、そのさいたまユネスコ協会を通じて学校校舎建設に実行する事を国際奉仕委員会で決定し、7月のクラブ理事会で承認されました。

資金の送金も終り、すでに工事も着工されて来年5月には竣工される予定になっています。その校舎建設の概要を少し説明させていただきます。

場所はネパールのパルパ県タフーン郡ドバディ村と言っても私もどの辺かさっぱり見当が付かないのですが、とにかく大変な田舎だと思ひます。何故かと申しますと、先ず飛行機でネパールの首都カトマンズに行き、カトマンズから飛行機で約30分のポカラに着きます。そこで普通車に乗り換えて約4時間でタンセンの町に行き、そこからジープに乗り換えて約1時間20分で現地に着くそうです。

その村にあるパシュパティ小学校が今回の校舎建設の学校です。現在1年生から5年生まで106名の児童が学んでいます。その校舎は4教室の1棟。1教室と職員室が一緒になった一棟を合わせて2棟の校舎が建っています。その校舎の写真を見ましたが、教室は電燈もなく小さな窓しか無いので昼間でも薄暗く狭く、石と泥で積み上げられた壁は所々剥がれ落ちており、日本の畑にある野小屋の方が立派な位に思ひました。現在の学校の敷地は狭くて新しい教室の場所が確保出来ない為、道を隔てた所の斜面を造成して用地を造り、そこに2教室を建設する予定で進んでいます。

そこでNPO法人さいたまユネスコ協会の学校建設活動に私達が共感したその手法ですが、先ず安易に資金を提供するだけでは村の教育に対する自立に繋がらないので、行政からの補助金や寄付金を募り約20万円位を現地の人達に調達して貰う事。次に建設委員会を地元の村人と教職員で構成し、建設に当っては村人も無償で労働奉仕をする。又、寄付をした団体もしくは個人の名を冠した教室や学校にする。たとえば今回の校舎は橋本RC教室と云ったところです。





そして今回の建設支援の金額の事も1つの要素でした。国際奉仕委員会の今年度の予算は150万円の活動資金を用意していました。今回のパシュパティ小学校2教室の建設金額は147万円でしたので、ピッタリ身の丈に合った金額で、それも実行する事になった1つの要因です。

今回の奉仕活動の実施は、あまり支援の手の届かない僻地の貧しい学校に奉仕の手を差し伸べるのが、国際ロータリーの活動目標の1つである識字率の向上に合致したプログラムではないかと私たちは思っています。そして来年5月の竣工の暁には、村を上げての賑やかな開校式になるとの事で、是非同行出席して頂きたいとさいたまユネスコ協会から要請されていますので、橋本RCクラブとしましても何人かで訪問したいと思っています。因みに後で分った事なのですが、さいたまユネスコ協会の会長と事務局長も大宮RCの会員であるのを知り、これも何かのご縁あったのだと思っています。

もう一つ最近の国際奉仕の活動ですが、私ども橋本RCは韓国の居昌RCと姉妹クラブの締結をして今年で36年になります。先月も居昌RCの会員家族16名が私共のクラブを訪問して下さいました。

橋本RCも過去21回、延べ200名以上の会員・家族が居昌RCを訪問し、国際親善に努めて参りましたが、相手方も私たちの方も両国の言語を話せる方が当初は結構いらっしゃったのですが、近年段々少なくなってきた、最近では双方共に一人か二人位になり、親密にコミュニケーションが取りづらくなってきています。先日も米山奨学生や日本在中で韓国語の話せる人達にお世話になり、それはそれなりに大変盛り上がったパーティを橋本市内で催す事ができました。今後もより努力して、親密な関係が継続していけるようにしたいと思っています。

以上 最近の活動を報告させていただきました。どうもありがとうございます。



テーマ「素晴らしき友情」

各クラブより、素晴らしい奉仕活動の発表報告をいただきましたが、粉河ロータリークラブも43周年を迎え、その歴史に相応しい数々の奉仕活動を先輩達に築き上げていただいております。中でも「友情」の素晴らしさは今も尚伝統として受け継がれております。今回視点を変えまして、その「素晴らしきクラブ奉仕」を事例に基づきながらご披露させていただきます。

今としては残念な結果となっておりますが、打田ロータリークラブが創立されたのは今から10年余前でありました。当時ガバナーとして責務の第一は2クラブ拡大と言う時代でありました。例年非常にご苦労された様であります。和歌山市内においてもクラブ拡大をめぐり大変な紛糾があったと聞いております。

当時、粉河クラブより地区の方へ拡大委員長を送り出しておりました。その委員長より、粉河でもう一クラブをとの要請が為されて参りました。直前会長によりますと、前年度にも要請がなされ、お断り



してあったとの事です。相談の結果「岩出ロータリーを拡大して未だ3年余りである。更に農村地帯という環境に加え、人口的にも無理」と言う事でお断りすることに致しました。

直前会長と共に拡大委員長のお宅に訪問いたしました。ところが委員長の熱意に押されてお断りしきれずに帰路につき、途中他のメンバーを訪れ、明け方の5時頃迄話し合いました。とにかく理事会に諮ることに致しました。その後理事会は勿論、クラブ協議会がしばしば開催されることとなります。殊にクラブ協議会では無理だ反対だの意見が声大きく多く出されて参ります。中には、少なく声小さい乍らも賛成意見も聞こえて参ります。

そこで結果発表しないと言うことで無記名によるアンケートを採ることになりました。その結果が全く同数で賛否が分かれておりました。最終会長が決断せよと言うことになったのです。会長決断と言われても、非常に悩みました。そこで思い至ったのが「ロータリーの友情」という言葉であります。拡大委員長を送り出しているクラブとしての責任もある。その委員長が困り果てている、日頃よく口にされている言葉であるが困ったときこそが「友情を」でなかろうかと言うことになりました。

いよいよ拡大という方針が決まりました。するとどうでしょう。それまで反対意見を声を大にしていた人達が一生懸命メンバー獲得へと動き出してくれたのです。賛成の人達よりも多く獲得してくれたのではなかったかと記憶しております。

拡大への方針が決まって間もなくではなかったでしょうか。ガバナー公式訪問がありました。お礼のご挨拶に「今日は何もお土産がありませんが、クラブ拡大をお土産にお持ち帰り頂きます」と申しあげました。すると驚いたことに、ガバナーが涙をぼろぼろと流し男泣きして喜んでくれたのでした。ロータリー歴の中でこの事が忘れられない思い出となって残っております。

意見は異にしても一旦決まった方向には全力を挙げて協力するという友情、これぞ粉河ロータリー先輩達が永年かけて築き上げてきてくれた「素晴らしきクラブ奉仕」ではないかと存じまして本日ここに披露させて頂きました。ありがとうございました。

ガバナー 村上 有司

講評とかいうようなものはありません。本当に素晴らしい活動を各地で実行してくれているんだなあ。そんなことを聞きながら、涙が出るような思いをしています。私もガバナーとして地区のことについては出来るだけ目を開いて見せて頂いたと思っております。このように個別の発表をお伺いしていると、私の知っている事は本当に10分の1か20分の1なんだと感じます。

各地では日々本当に汗水を流して社会の為に少しでも良くなるよう活動して頂いているんだなあ。そんなことを思うとロータリアンであって良かった。ロータリークラブに入らしてもらって良かった。ガバナーを担当させてもらって良かった。そんな考えで一杯です。



高野山クラブの発表の中で、ロータリーの森は田辺の会長をしていた時一度参加しております。あの時植えた木はどんなに育っているのでしょうか。もう一度現場にうかがって見てみたいものだとそんな感じを受けました。私の住んでいる南の山深い所でも随分雑木が切り倒され植樹もされました。森林状況が良くない為、植樹した木は手入れが不十分で倒れたり枯れたりしている。その為保水力が無くなり、田辺で水に困る状況にあると聞いています。地区大会では県の事業としての企業の森にも注目し、今地区大会でも実行計画に向けている。どうかロータリーの森の今後に充分気をつけて頂きたい。5カ年が経過したのでインターアクトの皆様の協力を得て草刈をしてくれております。息の長い活動をお願い致します。

防災については、火災報知機を当初のお年寄りの家庭にから全戸にと広げられました。的確です。公式訪問時、高野山町内を案内して頂きました。非常に良い町だと思いましたが、一つに集まっている。世界に誇る遺産が沢山あるので火事になるとどうなるかと心配していました。全戸に火災報知機を配られたのは的確で、すぐれた方策であると思います。

岩出クラブに関してですが、沢山見せていただきました。こんなに活動されているのかと感心しました。しかも一つ一つが相当な成果を挙げておられるという事です。素晴らしいのは清掃の問題にしても、コンサートの問題にしても、その土地の人と一体となって奉仕活動をやられているという姿を拝見することが出来た。これからのロータリーの奉仕活動というのはロータリーがひとり浮き上がって物事をするのではなく、地元のニーズを受け入れると同時に地元の人々と一体となってやる。そういうところに良いものがある。私は縁づくりと言っていますがロータリーだけの縁づくりでなく、そういう活動をする中で地元の人々の縁づくりが出来る。その中で岩出RCの存在が地域の人々に素晴らしい活動していると認められる。地元の人々をリードして一緒に汗を流すということです。コンサートも高嶋さんの話しも、障害者の方そして一般の方も一緒に入るわけです。一方だけでなく相互に知り合うのも素晴らしいことです。縁づくりをできると思います。

岩出クラブの青少年交換事業。これには地区にも委員を年々派遣してくれております。非常に昔から関心の深い事業です。1990年から受け入れて頂いております。理解し感謝申しあげます。この青少年交換というのは、若い15歳の子供を外国に送りだし招いて、若いうちから国際間を身につけてもらい、将来飛躍してもらいたい。青少年交換で行かせた子供達は行く時はおどおどしていますが、見違える様に立派になって帰ってくる。あの姿を見ると非常に感動を覚える。その子供達が10年、20年経ち、あの時の経験が人生を大きく変えた話をしてくれる姿を見ていると、ロータリーで青少年交換活動に力を入れて良かったと思う。引き続きこの活動にご協力をお願いいたします。ありがとうございました。

ゼネラルリーダー 中島治一郎

お疲れ様です。今5クラブの奉仕活動を聞かせていただきました。私は当初このフォーラムの進行、司会をさせていただこうと思っておりましたが、粉河RCの方が上手に進めて頂きました。各クラブの報告を聞かせて頂いて驚いたのですが、私はクラブからの奉仕発表だけで時間が余るかなと思っていましたが、非常に中身が濃かったと思います。多岐にわたり各クラブが違う内容を発表していただきました。

先の2つは村上ババナーが非常にうまく講評していただきましたので、私はもう追加するものは何もありません。3つの報告を聞かせて頂きました。青少年の健全育成は大切な事です。これからの日本に特に必要です。私達の子供の頃は親の後ろ姿見て育った。最近見るべきものの姿がない。誰かが代わりに背中を見せなければならぬ。ロータリークラブが格好です。各クラブが力を入れられ、地域社会の次代を担う子どもたちの健全育成に力を貸してください。又、スポーツへの補助も健全育成に大切です。環境づくりに精を出しておられること素晴らしいことです。

親睦にも力を入れられておられます。私どもの綱領、ロータリーは何を目的とするか綱領に書かれています。知っておられると思いますので、改めて皆さんには申すまでもありません。私達は他人に対する思いやりを非常に大切にしている。これが事業、私達の基礎、人生の義務です。他人への思いやりを育もうというのが会の目的。思いやった事を実践しなくてはならない。ロータリーは実践してなんぼである。思いやりを実行することを奉仕という。皆様がたの奉仕活動が自分の地域社会や世界のお困りの方にとって思いやりを発揮して役立っているかどうか。結果が出ているかがひとつの目安となる。そこには感動が必要であると思う。

今日発表していただきました奉仕活動の多くが、クラブの会員の共感を呼び感動が生まれたと思う。それが回りの地域の皆さんに感動を与えた。相乗効果を得て初めて人づくりに寄与して、将来に非常にプラスになる奉仕活動と評価出来ると思う。

IMは、昔はIGFとも云った。都市間である。近くであるが一応インターシティーである。5つのクラブが互いに発表して、他のクラブではどういうことをしているか勉強するのが半分で、後半分が親睦です。

仲良くなり縁づくりをする。そういった中に自分達はこういう事していると披露して、他のクラブや地域や町に興味をもって頂き、学んで色々持ち帰り、次のクラブの話をなさる時の参考にして頂きたい。

今日の奉仕活動紹介は意義ある事でした。私自身多く学んで感謝しています。必ず感動を生むとか。そして自分のクラブの皆様方の人格形成の向上に繋がる。そういう事実が生じることをきちっと踏まえて計画し押し進めていただきたい。今日発表して頂いたものはそういう事実を生んでいるに違いない。うれしく拝聴しました。このあと講演に移りますが村上ガバナーが仰っています「人づくり、縁づくり」ということで体験談をお聞きし、役立てて頂きたいとお願いたします。



基 調 講 演

東大阪宇宙開発協同組合 SOHLA 副理事長 吉田 則之様

本日はお招きいただきありがとうございます。今日ほど
んなお話をしたらいいのか。

通常、東大阪宇宙開発協同組合が取り組んでいる“まい
ど1号”というプロジェクトの立ち上がりと成果を出した
という、通り一遍の話をさせて頂いております。しかし今
日はどういう人の関わりやご縁があってこういう物が出来
たかを含めて話をさせて頂きたく思います。

東大阪でも中小企業の密集度が一番高い場所で、こうい
う時代で景気も非常に悪くなり、我々みたいところで何
か出来ないか。今日生活の周りにあるものは大量生産で安
く作ることに力が注がれて、どんどん海外に生産が移って
いっている。そういう中で人工衛星は大量製品ではござい
ません。有名な三菱電機、NEC、富士通など総合電気メ
ーカーは看板製品でもあって、日経新聞でも会社の技術力
を示す為に人工衛星をやっていると宣伝している。身近に
私達中小企業でも力を合わせれば実現できるのではない
か。しかも大量生産でなく、一品手作り製品である。やれ
ばできるのではないか。こういう企画が日本の政府の援助
を頂ける話もあり、東大阪で組合を設立してやってみよう。
何もしないより何か形にして物事を進めて、何かを得ようとするのが始まりました。なかなか想像してい
たより現実には難しかった。



ここで、今年の1月23日の打ち上げ時の模様をビデオで見て頂きます。

(ビデオより要旨)

[種子島打ち上げセンターから12時54分に打ち上げられたH2Aロケットは、高度670kmで“いぶき”を切り離し予定の軌道に入ることに成功しました。“いぶき”には7個の小型衛星も搭載されています。その中に東大阪の不況にあえぐ町工場が「夢を打ち上げよう」と苦勞して完成した新たな小型衛星“まいど1号”も乗せてありました。雷の発生を観測し予想を実現するのがねらいです。13社の物づくりの技術の結晶です。「すばらしい感動です。物づくりの情熱、技術、科学がすべて融合したものである。これがきっかけでどんどん宇宙開発に関わる若い人が続いて欲しい。」“まいど1号”は地元の企業に新しい活力を与えてくれそうです。]

あそこに至るまでが実に一番大変なのです。SOHLA（東大阪宇宙開発協同組合）のプロジェクトの目的として、不況にあえぐ中小会社がどうやって事業を継続させていくのかの課題もありまして、2002年12月に設立しました。我々中小企業だけの力だけでは打ち上げロケットもないし、何もかも全て出来ません。どの部分が自分達の特長を活かしてやっていけるか。中に使われている自分達の精密部品に職人技術が生かせる事が大事である。海外ではできないものがたくさんある。宇宙産業は毎日何百台というようなスケールで作るものでない。一品手づくり要素なので我々の力がいかせる事業であるということからスタートしている。こういうものを作るには、やはり情熱だけでは作れない。予算が必要である。

技術開発機構から出資のめどがつき、各大学の協力を得てこの人工衛星という一つの形を作っていこうとしました。頭ではこんなものを作ると想像するのですが具体化には模索を要した。組合各社には得意なネジを作るならまかせろ、歯車ならまかせろ。色々ある。部品単位に物を組み合わせていって初めて大きな形が出来る。

日本の宇宙開発の J A X A にも大変協力してもらった。姿勢制御をするパラボナアンテナなど地上局は私達では出来ない。大阪府立大学、龍谷大学、大阪大学にご協力頂いた。学生は想像力がいっぱいあり人件費がかからない。「何かやってみたいことはないですか。こんなテーマどうですか。先生、ほんまにできるのやろか。私の方で船を作りますからセンサーをやりませんか。」と持ちかけました。大学の方でも是非やらせて欲しいと。大阪大学は雷を宇宙から観測してみたい。意外と国のプロジェクトでは行われていない分野です。雷の予測で役にたつ。宇宙から眺めればどこで雷が起こるか次の予測がたてられる。地震と違って 10 分 20 分退避時間があれば安全な所に避難出来ると実用的です。産学一体というような形です。必要なのはお金。どうしてもかかる。新聞などで金額は紹介されていないが人工衛星一つ作るのに何億円も必要です。民間で事業化して、これでお金をもうけるには 20 ~ 30 億円。NEC さんや三菱電機さんでの受注金額です。我々中小、学生ボランティアでは一桁低いコストで実現可能でこれは何とかなんとスタートした。この資金の開発援助のめどがつき、中小、大学の産学協同あるいは資金面で統合し“まいど 1 号”が具現化してきた。我々だけでできているとは思っていない。これをやってみようという意思が皆さんの協力を得て形となり、1 月 23 日の打ち上げ成功とまで持って行け、このような成功のニュースとなった。感慨深い。産学連携ってよくきれいな言葉で言われますが、なかなかやれるようでやれない。文化のギャップがあり戸惑う。どう取りまとめていくか、そっちのほうに難しい。大学の先生とか J A X A (国の方々) との関わりが加わります。けれどお互い人間同志ですので話し合っていくうちにアドバイスを頂いたり出来る。産と学と国(官)の考えと目的を取りまとめながらやっていく。なかなか出発点からすると次々と産と学と国(官)のギャップが毎日発生する。人間結局、顔と顔を合わせながら話をすると何か知らないけれど前に進むことができる。紙の上とか、メールとかだけでは融合できない。顔を合わせて話が解る。解決し、互いに協力できる。話せばわかる。一番の文化の違いは金銭感覚です。官はお金の感覚が違う。我々なら一人で行って帰ってくることを運転手付きの車で挨拶する為に行って、「こんにちは」「さようなら」と帰ってくるだけでお金がかかる。私達には考えられない金銭感覚です。これをすき焼きと聞いていますが、産、学、官が 3 つ合わさって互いに理解しあうとプロジェクトが前に進んでいく。

ハンダづけの場合、電子部品は地球上では富士山みたいな形に盛り上がっているほうが電気は確実に通る。人工衛星では放電効果を起こして誤動作になる。だから平らにハンダづけをする。宇宙空間に出した時、電子回路が正しく動かなかったりする。最初は知らなかった。知らなかったらどうするか。J A X A にお尋ねする。アドバイスを得る。

温度差は 200 度である。過酷な環境で実験を繰り返した。しかも真空である。プロトン放射といってどんな遮蔽物でも放射線が人工衛星を突き進む。半導体動作に誤動作をおこす。どうやって防ぐか。防ぎようがない。コンピューターにエラー検出がおこる。わかったらどうやって検出するか。技術の中に取り込み検証する。

通常民間企業で国がまじめにセンサーを開発して作るととんでもない金額になる。学生や我々は世の中に流通している商品を組み合わせ探してきて、かつ宇宙空間で耐えるものを低コストでつくる。大阪府立大学ではアマチュアバンドをお願いしました。人工衛星にアマチュア通信機を組み込んでいます。





人工衛星は地球のまわりを何回か周回する。毎日日本の上空を2回、ほんの数十分で通過する。通過している中、Sバンドを使って毎日々JAXAのパラボナアンテナで姿勢制御する。ズレを修正するのです。また“まいど1号”からの分析結果を同じパラボナアンテナで受ける。そして解析する。

先ほど上げられた映像を見ていただきましたが、これが12時54分。この後“いぶき”から“まいど1号”が分離したとの信号が届いて成功です。届くまでドキドキしていた。職人の集まりで1回きりのチャンス

と思い、何回も動作を実験し確認して作った。これが成功に至ったと自負しております。3ヶ月の動作も目標だったが、6ヶ月後も動作続けている。

人工衛星に付けたCCDカメラの画像がダウンロードされた。気象衛星で写したのが新聞に載っていますが、自分の作った衛星の映像をCCDカメラで受け取った事はうれしくて仕方御座いません。人工衛星はスピニングホイールの遠心力で自分の体を回転させながら安定して軌道上を回っている。雷観測です。本当に雷の鳴っている時に雷の電波を受信出来ているのか。向こうの現地と照合して確実に雷を受信し、観測に成功した波形を人工衛星から正確に送られてきた。こうして成功した、世界的な雷観測でした。電磁波も受信できている。

種子島、小金井からレーザーを“まいど1号”に照射して入射角反射角を受ける。これで正常であることを確認しています。また“まいど1号”にプレートをつけています。協力各社や協力各位や関係者の名前を記入しております。

今年話題になった皆既日食ですが、大阪府立大学の太陽センサーで人工衛星を使って皆既日食を観察できた。これは予定外の観測で、計算すると日食の軌道上を通ることがわかったので観察してみた。人工衛星ですと障害がないのでセンサーが日食を感知しました。太陽エネルギーの減少をとらえました。

1月23日から8ヶ月以上正常に作動しておりました。これが9月の最後の映像です。10月10日“まいど1号”は無線局登録を停波し、電源を切りました。今日でも少しずつずれているが動いています。予想では今後30年間は軌道上を周回し、最後は力尽きて大気圏に突入し燃え尽きるので人類に危害をもたらさない。

打ち上げただけでなく、マスコミの方にも東大阪宇宙開発協同組合を宣伝して頂き、いろいろ賞を頂いた。50cm×50cmで50kgの小さな箱が全国民の二人に一人に知っている知名度を頂いた。関西財界センターで講演したり特別賞も頂いた。違う分野からも賞を頂いた。

今後の活動予定ですが、コンポーネント事業と云いまして、過程の中で出来たスピニングホール、センサー類などを他の大学の研究所で活用される時に利用してもらい、販売のチャンスもあります。我々の人工衛星コストは大手さんの何分の一です。もし人工衛星を作る中小企業があればお手伝いしたい。人工衛星は一つの形です。中小企業しか出来ない分野がある。講演会などでアドバイスさせて頂き地域皆元気になっていただきたい。大学にもお手伝いする方針です。

余談ですがアンテナの開発の場合、軽くて細くて丈夫なのをプロのアンテナ会社に頼むと多額の費用が必要ですが、釣竿に注目し、カーボンロットの釣竿メーカーさんに相談すると二つ返事を頂き、低コストで軽くて強いなかなかいいものができた。



【Q&A】

Q：人工衛星を打ち上げたことで 何か実質的なプラスの面がでていますか？

A：私のところは電子機器の開発会社で20人程の会社ですが、あの“まいど1号”を作った会社ですか。と知名度も高く、あの天下のソニーさんや松下さんと堂々と商談させていただいております。昔、プロジェクト前だったら一下請けの扱いでした。今は対等な形でお話しでき安心してまかせてもらっております。他にも板金、無線関係など参画したところは皆さん同じようです。受注が増えたとは目に見えないですが、『“まいど1号”をやっていた会社ですか。ぜひお願いしたい。』こういう成果が出ています。5年前何もせず過ごしていたら、世間の周りの同業者は50~70%減少です。少なくとも今は水平飛行です。今年に入って商談がたくさんあり来年は倍増です。今、世の中暗い話の多い中、明るい話が出来事はうれしいです。またこれに携わった従業員のモチベーションが大きくかわりました。後ろ向きより前向き。前向きになる力は後ろから押されないと出てこない。何か形あるものを目標とすることで前向きの力を受けることができる。
ご清聴ありがとうございました。



SOHLA について

SOHLA は小型人工衛星の開発を目指して設立した、製造業の協同組合です。

現在、参加企業は東大阪だけにとどまらず、大阪府下全域に拡大しています。

2003年10月には新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)より委託事業を受け、2007年度末までに2機の人工衛星を開発する計画のもと、プロジェクトは進行しています。

不況に苦しむ関西を活気付け、若い世代へモノづくりを継承したいという町工場の夢から始まった衛星打ち上げ計画は、いま、実現にむけて着実に加速しています。



閉 会 式

◎司 会 S. A. A 中谷 新治

◎講 評 ゼネラルリーダー 中島治一郎

皆様、お疲れ様でした。最初に4つの委員会、米山奨学会・ロータリー財団・情報規定・ガバナーとの交歓会を開催しました。すべて拝見させて頂きました。皆様熱心にご討議なさっていました。大事な事は是非クラブにお帰りになられまして、ここで学んだことをクラブの皆様にお伝えしたいと思います。

今日5クラブの発表会は意義深かったと思います。私自身も学ばさせて頂きました。講評し忘れたのですが、橋本RCさんがおやりのネパールに小学校の校舎づくり。これは第2640地区がかなり力をいれている。和歌山でも小学校の校舎を海外で作ろうというクラブが多い。非常に素晴らしいことだと思います。私もポリオのことで随分たくさん発展途上国に参りました。学校は貧乏ですが子供達は非常に熱心に勉強しています。あれでももう少し環境を良くしてやればなあ、いつも思います。パングラデシュもひどい校舎です。ついでにパングラデシュについて申し上げたい。

今年2月末から3月初めに会長代理で地区大会に出て話をしてまいりました。パングラデシュはおそらくアジアで最貧の国だと思います。食べ物も少ない、水も非常に悪い、難儀している、識字率も低い、ニーズだらけの国です。何か手を差しのべようと思えばあれほどニーズの多い国はないと思う。ところが彼等はねだらない。日本から行った私にこういうことで困っているから是非助けてくださいとねだりを一切しない。直ぐ自分達で解決しようとする。講師を呼んで話を聞く。ロータリーの間で何をしようか、なにが出来るか討議している。出来ることからやっていく。素晴らしいことです。ここは必ず今後伸びると思う。しかしニーズは山積しています。手伝ってあげると喜んで受け取ると思う。東南アジアには沢山ある。探す努力して出来ることから手伝ってあげられる事をすれば良い。橋本RCさんのやっておられる学校づくりは素晴らしいことと思う。完成後に招かれているので行こうかと言っておられますが是非行っていただきたいと思う。何故かと申しますと、自分達の手助けの成果をみて感動することが大事。帰ってきて仲間の人々に感動を分かち合う。そうすると参加者人格は向上するし、そして次の奉仕活動に熱が入るといい好循環を起こしますので奉仕活動の成果を確かめに行き、帰ってきてクラブに伝えてあげてください。また、他のクラブに行ってもスピーチを通して感動を分かちあってください。

今日の吉田さんの講演ですが、東大阪の方です。私はたまたま東大阪の出身です。生まれたのは若江岩田という小さな町です。よく知っています。あんなところの中小企業で何が出来るのかと思っていました。ところが彼らはやってしまった。喜びを感じる事ができました。東大阪の人々にやる気や喜び



と誇りを与えました。よくやっていると感心している限りです。地域社会の人々がやる気とか喜びとか感動とかを分かち合う種を差し上げることが大事なことと思います。そういう成果も皆様の地域の人々に分かち合うことが出来るように励んで頂ければ有難いです。

今日は委員会始めとして綿密なスケジュールを組み立てくれました。私はゼネラルリーダーとして名前を頂戴しておりましたが、1回しか粉河に来ておりません。全て粉河RCの皆様が成果をあげてくれました。私はたくさんのIMに行



ってきましたけれど、今日のほどまりが一番よかった。退席者は少なかったと思います。吉田さんのスピーチにもご期待あって残っておられたかもしれませんが、このような集いに対する皆様方の熱意が高いと証明していると思っています。クラブの活性化を図って頂き、そして地域の人々にいろんな方向でやる気や元気を差し上げてくださいと心に念じて私の講評にかえさせていただきます。ありがとうございました。

◎次期ホストクラブ紹介 ホストクラブ会長 谷口 寿英

◎次期ホストクラブ会長挨拶 高野山RC会長 近藤 本淳



◎閉会の言葉 ホストクラブ副会長 堀木 耕一



◎手に手つないで



◎閉会点鐘 ホストクラブ会長 谷口 寿英